

雲を突く石垣の城を守り活かす

保存活用計画で明らかにした利神城跡の整備課題

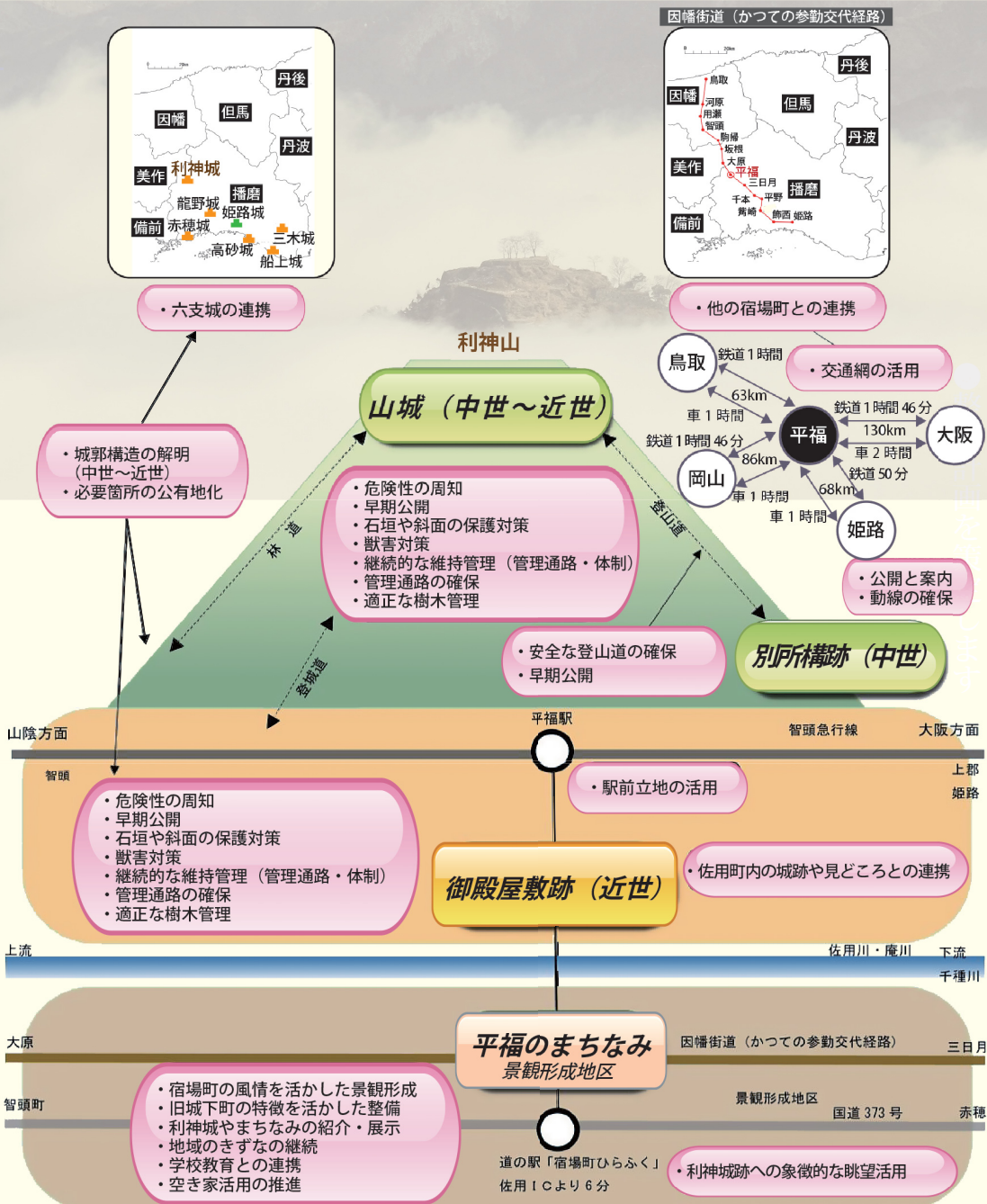


NO 6
2023
令和5年9月

国史跡 利神城かわら版

編集・発行
佐用町教育委員会教育課
〒679-5380
兵庫県佐用郡佐用町佐用2611-1
☎0790-82-2424

利神城跡の国指定(平成29年)によって、町は遺構をしっかりと保存し、活用を図っていく責務が生じました。このため、町は「保存活用計画」を作り、課題と保存・活用の方向性を明らかにしました。本年度からは、その方向性に基づき「整備計画」を作成し、計画的に整備を実施していきます。今月号では、利神城跡と周辺の課題と整備の考え方を図示してお知らせします。



●利神城跡及び周辺の課題図

課題項目

◆**地域の宝として次世代に継承**
 廃城後の利神城は、山城跡は古城として身近な里山として地域のシンボルであり続け、御殿屋敷跡は石垣を残しながら周辺は農作地として利用されてきました。残された石垣周辺の除草や伐採は、地域の人々が地域の宝として続けられています。利神城跡が大きな変容を受けることなく継承されてきた背景があります。今後利神城跡の価値や魅力を学ぶ機会を創出し、次世代への継承を図るプログラムづくりも大きな課題であり、整備計画の重要視点です。

◆**広域的な史跡との連携が課題**
 利神城跡の史跡価値は、山頂部と御殿屋敷の石垣に象徴されます。保存対策の重点は、石垣とその基盤である法面の措置です。また、歴史的背景から、城跡と平福のまちなみは一体的に保存・活用を図ることが大切であり、併せて、広域的に池田家六支城や因幡街道の宿場町、そして、町内の関連史跡である上月城や三日月藩乃井野陣屋館等と連携した整備も不可欠です。「保存活用計画」でまとめた課題と整備の方向性は、【上図】で示していますので、ご覧ください。